

地域支援だより

きらりNet



令和8年3月18日

第151号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

センター的機能の活用

令和7年度も、本校のセンター的機能を多くの方々から活用していただきました。幼保こども園、小中学校、高等学校、特別支援学校など、たくさんの学校と関わりをもち、私たちも多くの学びを得ました。ここでは、今年度の具体的な取組を紹介します。来年度の参考にしていただければと思います。

設置校訪問

■ 肢体不自由：18校

■ 病 弱：9校

肢体不自由や病弱の特別支援学級は、ほとんどが一人学級であるため、担任は、身近に相談相手がいなかったり、初めての特別支援学級担当で悩んだりするケースが多くあります。

担任だけでなく、特別支援教育コーディネーターや管理職の先生方が話し合いの場に同席する学校が多く、校内支援体制の整備につながる有意義な機会となりました。

日々の指導で困ったことがなくても、「情報を得る機会」として活用していただくことで、子どものより良い支援につながることもあります。設置校訪問をきっかけに、「きらり☆サロン」への参加や支援会議の実施など継続的な支援につながったケースもありました。

<💡?> どんことを話すの?>

- ・自立活動の指導内容
 - ・学習の工夫、支援、教材など
 - ・障害特性や病気への対応
 - ・自己理解、心理面のケア
 - ・交流級の学習参加、支援の仕方
 - ・校内の連携や関係機関との連携
 - ・保護者対応
 - ・中学校や高校などへの進路相談
- 等々、内容は多岐に渡ります。

1年生で学習を拒否していたときに、児童が楽しめるような活動を教えていただき、3年生の今では45分間しっかりと学習に取り組んでいます。

ノートの見え方について指導していただき、その後工夫することが出来ました。

実践研修

■ 肢体不自由：5校

■ 病 弱：7校

秋田県教育委員会で実施している研修で、初めての特別支援学級、あるいは初めての障害種を担当する教員を対象としています。各地域の教育事務所特別支援教育担当指導主事と一緒に同行し、授業参観及び協議に参加します。協議の中では、肢体不自由及び病弱教育に関する情報提供を行いました。

初めての担任でしたが、具体的なアドバイスをいただき、不安な気持ちが減り、前向きに関わっていただけるようになりました。

進路選択や社会参加について具体例を教えていただき、保護者との面談の中でも取り上げて、子どもの将来の具体像を思い描きながら目標設定をすることが出来ました。



設置校訪問・実践研修を活用した先生の声

サポートセンター☆きらり

<入院児への相談・学習支援>

■大学病院サポートルーム☆きらり 50名／423回

■秋田赤十字病院： 8名／ 40回

■中通総合病院： 1名／ 2回

■市立秋田総合病院： 2名／ 6回

■医療療育センター： 2名／ 14回

<幼児教室：きらり☆ひろば>

■中通総合病院： 8名／ 7回

★人数と回数は、2月末時点の集計です。

<その他>

入院児の支援だけでなく、大学病院のカンファレンスへの参加、在籍校との連絡調整や復学に向けた支援会議への参加など、退院後のサポートまで行っています。

実際の取組は、きらり Net148 号で紹介していますので、ホームページをご覧ください。

入院中もきらりの先生と勉強したり遊んだりできて楽しかったです。

オンライン授業で、お友達に会えて、今授業で何をやっているか知れてうれしかった。

入院中もずっと寄り添ってくれて感謝の気持ちでいっぱいです。



入院していた子ども達の声



入院生活に楽しみやメリハリが出て、友達もでき、勉強もできる環境を整えてもらいました。

学校とのつながりを感じられるよう、プリントやお手紙をいただいたこと、とてもうれしく思いました。

入院中、学習や学校に戻ったときのこと、不安や心配なことを相談できて良かったです。

保護者の声

障害理解学習

■ 小学校： 9校／11回

■ 県庁出前講座： 1か所(秋田市のサークル)

「からだに不自由のある人の理解や関わり方」について、講話や体験活動を行います。依頼校の学習のねらいに合わせて、「車いす体験」「ポッチャ体験」「道具の体験」などを行っています。

例えば車いす体験であれば、体験的に学ぶことで、子どもたちは「車いす操作は思ったより難しい」「声を掛けてから押してもらおうと安心する」などに気付き、どう関わればいいのかを自分のこととして考えることができます。

自校で事前学習をしてから臨んだ学校では、子どもたちが主体的に体験活動に取り組んだり、質問や感想がたくさん挙げられたりして、学びの多い時間となりました。



講話の様子

車いすで段差を越えるときに、すごく斜めに傾いて、「こんなに上がるんだ！」とびっくりしました。

車いすを押したときに友達が「速すぎて怖い」と言ったのでスピードに気を付けないといけないことが分かりました。

身体が不自由でもそうじゃなくても、「何かやってみたい」という気持ちは一緒なんだと思いました。

参加した子ども達の声

きらり☆サロン

■ 7回実施(6~2月まで月1回ペースで)

■ 肢体不自由:10名 病弱:13名 参加(延べ人数)

特別支援学級を担当する先生方の悩みや相談は、1度の設置校訪問で解決するものではありません。「きらり☆サロン」は、遠方の先生方と複数の相談機会をもったり、特別支援学級の先生同士が気軽に意見交流をしたりする場です。

話す内容は、「通知表の書き方をどのようにしている?」「運動制限のある子どもの体育の工夫は?」「リハビリの内容を学習活動にどう生かす?」「リコーダーの指導方法は?」「校外学習に参加するときの配慮は?」「進路指導をどう進める?」「指導者や保護者の不安を軽減できる引継ぎの内容とは?」等、日々の授業づくりに関することや、次年度に向けた取組など、幅広い内容が話題に挙がります。教育専門監とのやり取りだけでなく、「それぞれの学校ではどうしているのか」を情報交換することもできました。



きらり☆サロンの様子



月1回なので、すぐに相談でき、安心して授業に臨むことが出来ました。

学級運営の悩みを話すことができて良かったです。

悩みについて一緒に考えてもらい、心強かったです。

参加者の声



肢体不自由・病弱教育研修会

■ 令和7年7月25日(金)実施

■ 校外からの参加者：24名

■ 内容

・講話「自立活動の基礎基本と支援の実際」

・グループ別情報交換会

情報交換会では、肢体不自由・病弱・特別支援学校の3グループに分かれ、本校の職員も参加して日々の授業実践を紹介し合ったり、悩みについて意見交流をしたりしました。また、指導の参考にさせていただけるよう、本校で使用している教材展示や教室環境の参観も実施しました。

自立活動は、指導者の「こうなっ
てほしい」ではなく、子どもの「な
りたい自分」からスタートするこ
とが大事だと分かりました。

他の先生方も同じような
悩みをもっていると分か
り、安心しました。

他校の取組について知る
ことが出来、大変参考にな
りました。

参加者の声

センター的機能は「困っている」「悩んでいる」ときだけでなく、日々の授業づくりに活用していただくことで、よりよい子ども支援・保護者支援・校内支援体制整備につながります。本校は、県内唯一の肢体不自由者及び病弱者を対象とする特別支援学校として、関わる皆様に情報発信をする役割を担っています。次年度も、本校のセンター的機能をご活用ください。